

教育研究上の目的

幼児教育学科は、「子どもから学ぶ」という基本姿勢のもと子ども一人一人を尊重し、子どもの豊かな育ちを支える感性と知識を有し、家庭・地域・社会の課題に柔軟に対応できる実践力を身につけ、子どもとともに自らも育ち続けようとする意欲をもった人間性豊かな保育者（人材）を育成することを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するために、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 保育・教育に関する専門的な知識・技能を身につけ、子どもと響きあえる豊かな感性と表現力をもち、生涯にわたって子どもとともに自己を高めようとする意欲を有している。
2. 一人一人の子どもを尊重し、共感的に理解・対話する態度を有し、子どもの育ちを支えるために多様な他者と連携することの重要性を理解し、協働的な保育を実践する力を身につけている。
3. 子どもの実態と社会における諸課題を捉えて保育を構想・実践し、適切な判断力と実行力をもって課題解決に取り組み、組織・家庭・地域・社会へ貢献できる力を身につけている。

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

① 知識・技能

1. 保育・教育に関する基本的な理論、子どもの理解に関する知識を身につけ、説明できる。
2. 「子どもから学ぶ」という基本姿勢を備え、子どもの人権を尊重し、子どもとの対話を通して子どもの世界を共感的に理解しようとする。
3. 保育・教育の制度・政策、子どもの成育環境についての現状を理解し、保育・教育をめぐる諸課題について説明することができる。

② 思考力・判断力・表現力

1. 子どもと一緒に感じたり考えたりできる豊かな感性を養い、子どものさまざまな表現を見つめ受け止めながら、子どもと響き合う表現を探究できる。
2. 子ども一人一人の主体性が十分に発揮されるための適切な援助を即応的に判断し、実践することができる。
3. 子どもの姿から、求められる保育を構想・計画し、実践することができる。

③ 主体性・多様性・協働性

1. 自らの学修や保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、子どもとともに育ち続けようとする自己研鑽の意欲を有している。
2. 保護者・地域・他の専門職との連携や役割分担について理解し、多様な他者と協働して課題解決に向かおうとする。
3. 保育・教育に関わる社会的課題の解決に向け、子どもの育ちを支える者として自分の役割を考え、広く社会へ貢献することができる。

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育学科では、「子どもから学ぶ」という基本姿勢をもった保育者養成を基盤とし、ディプロマ・ポリシーに挙げた資質・能力を身につけるためのカリキュラムとして6領域を設定し、各領域に学修過程に応じた科目を配置する。

1. 「保育・教育の本質」領域では、保育の基本的理念や制度、社会の諸課題に対する知識の修得を目指し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を養う講義科目を設置する。
2. 「子ども理解・人間理解」領域では、子どもを共感的に理解し、他者と対話・協働しようとする姿勢を養い、子どもの育ちを理解するための専門的知識や技能を幅広く修得する科目を設置する。
3. 「保育・教育の内容と方法」領域では、保育内容の各領域や、乳児保育や障害児保育等の各分野に特化した知識と技能を修得するとともに、保育内容の総合性を理解し、保育を構想する力を養う演習形式の授業を中心とした科目を体系的に設置する。
4. 「感性と表現」の領域では、子どもの豊かな表現を見つめ、育むために、子どもと響き合う感性や表現力を涵養する。そのため、演習形式の授業における参画型の学修を中心とした授業を設置する。
5. 「フィールドワーク（実習）」領域では、さまざまな保育現場で子どもや保育者等とかわりながら、状況に応じて判断・行動する力、協働的に保育を構想・実践する力を段階的に身につけ、自らの保育を省察し続ける姿勢を養う科目を1年次より設置する。
6. 「発展と総合」領域では、保育・教育の学びを統合する科目、研究方法に関する知識を修得する科目を3年次の必修科目として設置する。また、3・4年次を通して自己課題や子どもをめぐる諸課題を発展的に探求できる選択科目を設置する。
7. 3年次後期より卒業研究に向けたゼミナール形式の科目を設置する。4年次には本学科で学修した成果をまとめて社会に還元するための科目として卒業研究を設置する。

各授業の目標に応じて、ディスカッションやグループワークを通して仲間と学び合う機会、リアクションペーパー等を通して教員と双方向的に学び合う機会、主体的に課題を探求し、発表する機会を適切にもつ。

そのための教育課程の編成方針は以下のとおりである。

保育・教育の本質

1. 保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識を修得させ、子どもの成育環境についての現状を理解し、社会における諸課題について説明できる能力を育成する。
2. 保育・教育に関する基本理念や子どもの人権、子どもをめぐるさまざまな制度・政策についての知識に基づき、子どもの最善の利益を考慮し、子ども一人一人の主体性を尊重する保育者の基本姿勢について考え、説明できる能力を育成する。
3. 子どもをめぐる社会の諸課題の解決に向けて、保育者が保護者・地域・他の専門職との連携協働することの重要性が理解できる能力を育成する。

子ども理解・人間関係

1. 子どもの発育や発達についての専門的な知識と技能を修得させ、これらの知識に基づきながら子ども一人一人を共感的に理解しようとする保育者の基本姿勢を獲得させる。
2. 子どもと対話しながら子どもの生活の実態や発達の理解を深め、子ども一人一人に適切な環境や援助を考える力を身につけさせる。
3. 保育者として保護者・地域・他の専門職とも連携しながら子ども理解を深め、他者と協働しながら子ども一人一人にふさわしい生活を実現していこうとする態度を身につけさせる。

保育・教育の方法と内容

1. 子どもたちに育みたい資質・能力について理解し、保育内容の各領域、乳児保育や障害児保育等についての専門的な知識と技能を修得し、子どもの育ちに即した保育を構想する方法を身につけ、指導計画を作成する能力を育成する。
2. 保育内容の総合性を理解し、保育事例について仲間と意見交換をしたり、模擬保育等で仲間や教員とさまざまな役割をとったりし、援助の実際を考えることができる力を身につけさせる。
3. 子どもの最善の利益のために、保育者として保護者・地域・他の専門職と連携していく手立てを理解し、自らの役割を担おうとする態度を身につけさせる。

感性と表現

1. 生活や遊びにおける子どもの表現とは何かを理解し、子どもの気づきや興味・関心からはじまる表現を見つめ、受け止めるまなざしを獲得させる。
2. 子どもと一緒に感じたり考えたりできる感性をもち、子どもの感性や表現がより豊かになるための可能性を捉え、自身も表現し、行動する能力を育成する。
3. 一人一人の子どものさまざまな表現と豊かに響き合えるように、自身の表現を磨いたり、探究したりしようとする意欲を育成する。

フィールドワーク（実習）

1. 保育者に求められる倫理観と社会人として求められる基本的態度を身につけさせるとともに、子どもと共に生活し遊ぶことを通して「子どもから学ぶ」姿勢と態度を育成する。
2. 子ども一人一人に対する共感的理解に基づき適切な援助を即応的に判断する力、子どもの育ちを見通しながら保育内容を構想し展開する力を段階的に育成する。
3. 自らの保育行動を省察することを積み重ね、自己の成長と課題を見出し、多様な他者と連携・協働しながら、子どもとともに育ち続けようと自己研鑽する姿勢を身につけさせる。

発展と統合（卒業研究）

1. これまでに学修した知識や技能を有機的に統合させたり、保育・教育に関わる新たな知識や技能を発展的に修得させる。
2. 学修の軌跡を捉え、自ら課題を設定して研究しようとする姿勢を育成し、仲間と意見交換をしたり成果を発表したりする能力を育成する。
3. 自己課題を自覚し主体的にその解決に取り組もうとする姿勢とともに、子どもをめぐる社会の諸課題を捉え発展的に探求する姿勢を促し、自身の学びの成果を社会へ還元しようとする意欲を育成する。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的と教育内容を踏まえたうえで、次のような学生を求める。

1. 基礎的な学力を身につけている。
2. 豊かな感性をもっている。
3. 人と協力して物事を進めていくことができ、基本的な社会性を備えている。
4. 子どもと共に学び、子どもと共に成長しようとする意欲がある。

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 人間教育に必要な幅広い教養を身につけるために、高校までのすべての教科に関する基礎的な知識・技能を身につけている。
2. テーマにそって論理的に考えることができる。
3. 子どもや幼児教育について自ら学ぼうとする意欲をもっている。

②思考力・判断力・表現力

1. 自分の考えを的確に文章で表現する力を身につけている。
2. 他者の意見を受け入れながら自分の意見も伝えることができる。
3. 人と協力をして物事を進めていく力を身につけている。

③主体性・多様性・協働性

1. 幼児教育学科の教育理念を理解している。
2. 自分の考えを文章で表現することができる。
3. 基本的な社会性（基本的生活習慣や態度、言葉遣い）を身につけている。